

産業技術大学院大学 『プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール』 全体シラバス

主担当教員 酒森 潔（産業技術大学院大学産業技術研究科情報アーキテクチャ専攻、教授）

定員 各 20 名
総時間数 最大 207.5 時間

項目	内容
プログラムの概要	<p>本コースは 3 つのユニットから構成されている。ユニット 1 はプロジェクトマネジメントの基本を学習したい方のための入門編、ユニット 2 は仮想プロジェクトを使った模擬プロジェクト実践編、ユニット 3 は高度なプロジェクト管理ツールやヒューマンスキルを学ぶ上級編である。</p> <p>科目はすべて選択科目であり、1 科目単位で受講可能である。修了科目の講義時間が合計 120 時間以上に達したら、文科省が承認した履修証明プログラムの修了証を交付する。</p>
受講対象者	情報システム業界において、これからプロジェクトリーダーやプロジェクトマネジメントを任されようとしているエンジニア。
プログラムの狙い	プロジェクトマネジメントに関して体系的な知識を整理し、さらにより高度な技法や技術をおりまぜた模擬プロジェクトを通じて実践で活用できる能力を身につけることを目的としている。
プログラムの構成	<p>科目構成</p> <p>■ ユニット 1 入門編：67 時間 （すべて選択科目、1 科目単位で受講可）</p> <p>プロジェクトマネジメント入門（14 時間）</p> <p>PMP 受験対策講座（21 時間）</p> <p>プロジェクト・リスク・マネジメント（6 時間）</p> <p>イノベーションのためのアジャイルプロジェクトマネジメントの基礎（6 時間）</p> <p>リアルタイム PM シミュレータ演習（6 時間）</p> <p>PMBOK®徹底読み解き（14 時間）</p> <p>■ ユニット 2 実践編：68.5 時間 （すべて選択科目、1 科目単位で受講可）</p> <p>受注プロジェクトの管理（12 時間）</p> <p>システム開発プロジェクト管理【プロジェクト管理特論 2】（22.5 時間）</p> <p>実践プロジェクトマネジメント演習（28 時間）</p> <p>事例研究（6 時間）</p> <p>■ ユニット 3 上級編：72 時間 （すべて選択科目、1 科目単位で受講可）</p> <p>プロジェクトマネジメントのツールと技法【プロジェクト管理特論 3】（24 時間）</p> <p>プロジェクト・マネジャーのキャリアデザイン（6 時間）</p> <p>IT 経営プロジェクト（18 時間）</p> <p>パーソナルスキル 1 /コーチング&メンタリング（6 時間）</p> <p>パーソナルスキル 2/コミュニケーション・ネゴシエーション（6 時間）</p> <p>情報処理技術者プロジェクトマネージャ試験対策コース（12 時間）</p>
出席要件	原則として、各科目において 3 分の 2 以上の出席を要する
修了要件	<p>科目はすべて選択である。受講募集はユニット単位とするが、1 科目から受講可能である。</p> <p>修了科目の総時間数が 120 時間以上の時に履修証明書を与える。</p> <p>なお、修了要件を認定するための、各科目の有効期限は、5 年である。</p>

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット1	時間/コマ数	14/9.33	選択・必修	選択
開催日	2017/8/19～8/20	科目名 (英文表記)	プロジェクトマネジメント入門 Project Management Basic			教員名	三好 きよみ

概要	プロジェクトマネジメントの国際標準である PMI(Project Management Institute)の「PMBOK ガイド®第 5 版」を基準に、プロジェクトの立ち上げから、終結までのプロセスに沿って、プロジェクトマネジメントの基礎を学ぶ。 プロジェクト事例を使つての演習問題により、実際のプロジェクトに即した中で、理解を深めていき基本事項の定着を図る。			
目的・狙い	<p>本授業は、学習者が IT 分野における実際に活用できるプロジェクト管理技術を習得することを目的とする。実務の事例やプロジェクトマネジメントのグローバル標準である PMBOK の知識体系との関係を体系的に整理し、理論を実践に適用できるようになることも狙い目の一つである。</p> <p>具体的には、学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得できる。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 情報システム構築プロジェクトの立上から終結までのプロジェクトマネジメント・プロセスを理解する。2. 「情報処理技術者スキル標準」(プロジェクトマネージャ) に基づいた情報システム構築のプロジェクト管理について理解する。3. PMBOK のプロジェクトマネジメント知識体系を、どのように情報システム構築プロジェクトへ適用するのかについて理解する。 <p>PDU 申請のサブカテゴリー区分：</p> <p>「リーダーシップ」： 2PDU</p> <p>「テクニカル・プロジェクトマネジメント」： 10PDU</p> <p>「ストラテジック& ビジネスマネジメント」： 2PDU</p>			
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発のプロジェクトに所属した経験があること。 出願・受講申請により受講を認められた者。			
到達目標	上位到達目標			
	(ITSS レベル 4 相当) 小規模のプロジェクト (10 人月程度) を PM として実行できるようになる。 大規模なプロジェクトの PM 補佐、あるいはサブプロジェクトのリーダーができるようになる。 PMP(プロジェクトマネジメントプロフェッショナル) 試験合格			
	最低到達目標			
	(ITSS レベル 3 相当) プロジェクトにおいて PM 補佐、あるいはサブプロジェクトのリーダーができるようになる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		○	プロジェクトマネジメントの知識に関しては、講義を通じて、PMBOK® の知識エリアごとに行う
	対面授業	講義 (双方向)	○	講義中はオープンに質疑応答を受ける
		実習・演習 (個人)	○	習得内容をまとめる課題により実施する
		実習・演習 (グループ)	○	グループ演習で課題を解くことにより、チームワークを身につける
	サテライト開講授業		—	
その他		—		
授業外の学習	事前に LMS に掲載する講義資料に目を通して授業に臨むこと。			
授業の内容	プロジェクトとは何か？プロジェクトマネジメントは何のために行うのか？という基本的なところから、スケジュール作成、進捗管理、チーム運営を始めとするプロジェクトマネジメントにて必要となるツールと技法を、プロジェクトの立ち上げ、計画、実行、終結の流れに沿って解説する。適宜、プロジェクト事例を使つての演習問題を行い、WBS、スケジュール作成、進捗管理の手法など学んだ内容を定着させる。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	講義概要の説明 ：講義概要の説明 プロジェクトマネジメントについて ：プロジェクトとは何か、プロジェクトマネジメント、プロジェクトマネジメントの歴史について学ぶ。自らが経験したプロジェクトにおいて、成功と失敗を考える。 プロジェクトの立ち上げ ：プロジェクト憲章(企画)の作成、ステークホルダーの特定について学ぶ。 演習：プロジェクト事例から、ステークホルダーの特定と分析を行う。	無	対面
	第 2 回	プロジェクトの計画 ：①スコープ定義、②WBS：ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャーについて学ぶ。 演習：プロジェクト事例から WBS を作成する。	無	対面
	第 3 回	プロジェクトの計画 ：③スケジュール作成(所要期間見積り、作業順序の設定、クリティカルパス)について学ぶ。 演習：プロジェクト事例からスケジュールを作成する。	無	対面
	第 4 回	プロジェクトの計画 ：④資源の割り当て、⑤コスト計画、⑥調達について学ぶ。	無	対面
	第 5 回	プロジェクトの計画 ：⑦リスクマネジメント、⑧品質計画について学ぶ。 演習：プロジェクト事例からリスクを識別し対応を検討する。	無	対面
	第 6 回	プロジェクトの計画 ：⑨コミュニケーション、⑩ステークホルダーマネジメントについて学ぶ。演習：プロジェクト事例からプロジェクト計画書を作成する。	無	対面
	第 7 回	プロジェクトの実行 ：プロジェクトチームの運営、進捗管理(EVM：アーンドバリューマネジメント)、変更管理の方法について学ぶ。 演習：プロジェクト事例から変更要求への対応を検討する。	無	対面
	第 8 回	プロジェクトの実行 ：プロジェクト実行中の問題管理、課題管理について学ぶ。 演習：プロジェクト事例から課題発生への対応を検討する。 プロジェクトの終結 ：プロジェクトの終結の方法について学ぶ。	無	対面
成績評価	次の 2 つのポイントで評価する(合計 100 点満点) ・ 講義レポート 5 点 X 8 回 ・ 課題の提出 30 点 X 2 回			
教科書・教材	LMS システムでレジュメを配布するので、各自授業前にダウンロードして講義に持参すること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第 5 版』 https://www.pmi-japan.org/bookstore/pm_std/pmbok5_1.php			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット1	時間/コマ数	21/14	選択・必修	選択
開催日	2017/8/27,9/3,9/10	科目名	PMP 受験対策講座			教員名	酒森 潔
		(英文表記)	PMP exam preparation				

概要	<p>この講義は、システム開発プロジェクトの立上から、スケジュール作成、コストの見積り、要員計画、リスク管理、問題管理、変更管理、品質管理、進捗管理、キックオフや各種進捗会議の進め方、進捗報告の方法、クロージングなど PM に必要な能力を体系的に理解し、プロジェクトで実践できるようになります。</p> <p>また、内容は PMBOK®ガイドの内容を完全に網羅しているので、PMP 受験対策コースとしても活用できます。PMBOK®ガイドを丸暗記するものではなく、実際のプロジェクトの流れにそって学習するので、より理解が深まり PMP 受験対策として高い効果が期待できます。</p> <p>本コースは、PMP 試験受験のための事前学習時間 35 時間のうち 21 時間をカバーします。本研修の前に履修証明プログラムの PMBOK 入門（14 時間）を受講することで両コース合わせて事前学習時間の 35 時間を満たします。</p>		
目的・狙い	<p>本研修はプロジェクトマネジメントの知識を、実務の流れに沿って体系的に学ぶことで、PMP 試験に合格すること目的としています。ただの試験対策や準備だけでなく、PMBOK®ガイドの内容を実務で活用できる能力を身に付けることを目的としています。</p> <p>【この研修で得られるもの】</p> <p>プロジェクトのマネジメントの基本に従ったプロジェクトの進め方を体系的に身につけることができます。プロジェクトは個々に違うものですが、どのプロジェクトにも必要な共通の手順や考え方があります。研修での講義や理解度確認を通じて、プロジェクトマネジメントの知識を自分のプロジェクトに応用する能力を身につけることができます。さらに、PMP 受験対策として教科書の丸暗記ではなく、実務に対応させて PMBOK®ガイドの内容を理解することを狙いとします。</p> <p>PDU 申請のサブカテゴリー区分</p> <p>「リーダーシップ」： 6PDU</p> <p>「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：9PDU</p> <p>「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：6PDU</p>		
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理について基本的な知識があること。		
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>(PMP 試験合格)</p> <p>コース受講後、ただちに PMP 試験を受験し合格することを目標とします。</p> <p>最低到達目標</p> <p>(PMBOK®ガイドの考え方を実践に活用できる)</p> <p>ある程度のシステム構築プロジェクト(100 人月程度)を PMBOK の考え方に基づいて PM として実行できるようになる。</p>		
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		
	対面授業	講義(双方向)	◎
		実習・演習(個人)	◎
		実習・演習(グループ)	
	サテライト開講授業		
	その他		
授業外の学習	<p>PMBOK®ガイドに関して一通り目を通して講義に参加すること</p> <p>講義後は、別途指定する問題集などで PMP 受験のための知識の理解度を確認すること。</p>		
授業の内容	<p>本講義は、PMI 発行の「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)」に基づいて、プロジェクトの開始から終了までの流れを講義中心に学習する。講義の中で、PMBOK®ガイドのキーポイントや、PMP 試験での重要項目などを解説する。</p>		

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1回	PMP 試験概要：プロジェクトマネジメントの世界、日本の標準としてどのようなものがあるか、また世界のデファクト標準となっている PMI の PMBOK®ガイドや PMP 試験について解説する	無	対面
	第2回	プロジェクトの選択とプロジェクトマネジメント プロジェクトとは何かその定義を明確にして、さらに企業活動におけるプロジェクトの位置づけやプロジェクトマネージャの役割について解説する。プロジェクトが開始し終了するまでのライフサイクルの特徴を解説し、組織構造やステークホルダーの影響、プロジェクトチームについて補足する。	無	対面
	第3回	プロジェクトの立上げ：プロジェクトがどのように選定され、立上の際、どのようなプロジェクトマネジメントプロセスが必要かを学ぶ。	無	対面
	第4回	プロジェクトマネジメント計画とスコープ定義：プロジェクトマネジメント計画書の構成や記載項目を理解する。計画書はスコープ、スケジュール、コストの3つのマネジメント計画書をコアとして、品質、リスク、コミュニケーションなど補助的な計画書から構成される。	無	対面
	第5回	WBS の作成と品質計画：まず、WBS についてその特徴や作成のルールなどについて学んだのち、プロジェクトスコープをブレイクダウンして WBS を作成する方法について理解する。	無	対面
	第6回	リスク管理：リスクの特定、分析、対応策といったマネジメントの基本プロセスを学び、プロジェクト計画策定時のリスクマネジメントの目的や重要性を理解する。リスク特定に有効ないくつかの技法やリスク一案表の作成方法について学習する。	無	対面
	第7回	アクティビティの定義とスケジュール管理：WBS のワークパッケージをアクティビティに展開する。依存関係や作業期間を考慮したアクティビティの作業計画を作成するために、順序関係の種類やその表記方法について学ぶ。	無	対面
	第8回	資源計画とコスト見積り：リスク対応も含んで整理されたアクティビティに対して要員をアサインする。必要に応じて要員を外部調達要員にしたり、スケジュールを変更したりする。	無	対面
	第9回	プロジェクト実行とチームマネジメント進捗管理：作成したプロジェクト計画に基づいてプロジェクトを実施する方法や、チームマネジメントについて学ぶ。	無	対面
	第10回	プロジェクトの実績測定とコントロール：プロジェクトの進捗情報を把握するための実績情報の収集方法やその分析方法について学ぶ。	無	対面
	第11回	進ちょく・変更管理：プロジェクト実施中の進捗管理の方法や、変更管理プロセスについて学ぶ。	無	対面
	第12回	作業結果管理とプロジェクトの終結：プロジェクトマネージャがプロジェクトの終了時に行う作業として、プロジェクトの移行計画書の作成や、完了基準の策定を学ぶ	無	対面
	第13回	プロフェッショナルとしての責任：PMI®倫理・職務規定をもとに、PMP や PMI 関係者に求められるプロジェクトマネージャとしての高い行動規範について理解する。	無	対面
	試験	確認テスト：学習の内容をベースに PMP 試験対策としての理解度を試験で確認する	無	対面
成績評価	各章の確認問題および期末試験で実施する ・ 期末試験 最終回に PMP 試験問題レベルの確認問題を解く			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 毎回の講義資料印刷したものを配布する。			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第5版』 https://www.pmi-japan.org/bookstore/pm_std/pmbok5_1.php			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット1	時間/コマ数	6/4	選択・必修	選択
開催日	2017/9/2	科目名 (英文表記)	プロジェクト・リスク・マネジメント Project Risk Management			教員名	竹政 一夫

概要	この“プロジェクト・リスク・マネジメント”ではプロジェクトで発生する「危機」と「チャンス」、両方の“未来”を管理する方法の修得を目的とする。不確定ながらプロジェクトの行方を左右する発生事項を、合理的な見通しを立て、最善の対処法を得る手法を学ぶ。PMBOK®ガイドで定義された知識体系を基本に講義を行うが、プロジェクトのみならず日常実務上発生する具体的事例で、理解出来るように説明を行う。これにより、実務上でプロジェクト・リスク・マネジメント計画と管理手法が身に付く。本科目はまた、実例をベースにした対応演習を通じ、受講者の日常発生する各種リスクにも、最適な適応法や対処法のスキルを修得できるように構成されている。			
目的・狙い	授業の目的とねらい この授業は IT を含む全ての業種の企画・開発・戦略・研究などの創造性を要求される部門の管理や直接担当される方々を対象に構成されております。 リスク・マネジメントの体系的知識を修得し、手法を具体例で学ぶことで、会得知識をプロジェクトのみならず、受講者の日常業務にも、実用できることを目的としている。 1 “リスクとは何か”を西洋社会での一般認識、ネガティブ及びポジティブのリスク両面から真の意味を理解する。 2 リスクが将来発生する全ての事象に関係し、プロジェクトの成否がこの対応方法如何によることを理解する。 3 各種リスクの効果的リストアップ、分析手法を学び、リスクの大きさを合理的に区分する手法を把握する。 4 リスクを正確に把握することで、予算、スケジュール、品質計画などがより高い確率で実現することを学ぶ。 5 各種リスクに最適の対応策が選定でき、実行フェーズで突如発生するリスクにも迅速な対応策が立案できる。 6 プロジェクトの各フェーズをとうし、リスクへの最適対応法が理解でき、実務への活用を可能にする。 PDU 申請のサブカテゴリーの区分 「テクニカル・プロジェクト・マネジメント」 : 6PDU			
前提知識 (履修条件)	プロジェクト・マネジメント概論の基礎知識を持ち、プロジェクト業務従事者や管理者など、日常業務上でリスク対応スキルを実務上必要としている修得希望者及び PMP 受験希望者			
到達目標	上位到達目標 実際に従事するプロジェクトや各種事業のリスク・マネジメント計画をプロジェクトのリーダーとして立案し、学んだリスク分析手法を用い、分析を実施し 対応計画を立案、リスク対応を実際に担当できるレベルに到達する。PMP 受験可能なレベル 最低到達目標 プロジェクト業務や日常業務に内在する各種リスクを定性的、定量的に把握し、局面の展開に合わせ、適切な対処法が見いだせるレベルになる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業			
	対面 授業	講義（双方向）	◎	全体講義と基礎理論は PP を使用した講義形式で行う。 講義は品川キャンパスで対面講義形式
		実習・演習（個人）	◎	講義内で受講者が与えられた実例を基に対応を考え、レポート作成、各自発表してもらいます。O/A 対話形式で、理解を深めます。
		実習・演習（グループ）	○	（参加人数が 5 名以上の場合には、上記演習を Gr ワーク形式ですすめることが有る）
	サテライト開講授業			
その他				
授業外の学習	事前学習として【PMBOK 第 5 版：プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMI）】の第 11 章 プロジェクト・リスク・マネジメントは受講前に読んで基礎を学習して置くこと。また講義後もリスク・マネジメントは、新技術、新事業など創造的プロジェクトの根幹をなすこと。この手法は日常業務にも活用できることなどより、リスクマネジメント関連図書などを通じ、より深く修得を続けてもらう。			
授業の内容	本科目は、プロジェクトマネジメントの国際標準である PMI（Project Management Institute）の「PMBOK®Guide®Fifth Edition」を基準に、プロジェクトリスクマネジメントの基礎と応用を学ぶ。授業は、PMBOK®ガイドで定義された知識体系を基本に講義を行うが、実務に関連する演習も取り入れたものである。実際のプロジェクト・リスク・マネジメント計画と管理手法を理解する。演習を通じ、日常業務上で発生する各種リスクに対し、対応や対処方法が活用できるスキルを身に付くように構成されている。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	マネジメント概要と計画 ここでは、まず本来のリスクとは何かを考えていく。日本社会ではネガティブリスクの比率が過大に取り扱われ、ポジティブリスクに対する取り組みが弱く過小になりがちである。これを強化し、プロジェクトにも成果物にもより多く効果を取り入れるべきことを学ぶ リスク・マネジメント計画は本来近い未来に発生してくる事象への対応を計画するもの。洞察力を発揮し適切な道具を有効利用すれば、失敗確率の高い新規開発プロジェクトでも成功へと導く計画作成が可能となる。プロジェクトを成功させるにはこのような適切計画作成が不可欠であることを学ぶ	無	対面
	第 2 回	リスク特定 プロジェクトで発生確率の高いリスクを漏れなくリストアップすることはそう簡単なことではない。これを漏れ無く準備できていることが、プロジェクトの成否を握る重要項目の 1 つである。効率的なリストアップ方法を演習で学ぶ。リスクの特定がプロジェクトを取り巻く環境に大きく影響され、特に対象となる国や法律、民族や文化、また環境などにより大きく変化することを、実例で理解する	無	対面
	第 3 回	定性的リスク分析・定量的リスク分析 リスクは未来に発生する出来事で有るだけに、対応に優先順位を付けて対応する。ここではリスク優先判定に適切なツールを使用し、各リスクを定性的分析と数値化をする定量分析を行うことで、対応計画作成が比較的容易に行える手法を学ぶ。リスク定量分析のツールや技法が統計学の理論を活用していることを理解し、演習を通じて修得する。	無	対面
	第 4 回	リスク対応計画とリスクのコントロール リスクが将来プロジェクト内で実際に発生した場合、どのような対応をとるか、予め、対応方法をリスク毎に予め決定して置く、ここではリスク毎に取り入れるべき対応方法の選別手法を人間心理や行動理論に従い実例を取り上げ学ぶ。プロジェクトの進展に従い、各フェーズ毎に変化するリスクはその都度計画の見直しが必要となる。プロジェクトでは多くの種類の変更も不可欠であり、またこれに伴い新たにリスクが発生してくる。プロジェクトがこのような事態にどう対応していくべきかを学ぶ	無	対面
	試験	第 4 回講義内で実施する。（記述式）	無	対面
成績評価	次の 3 つの課題を評価する(合計 100 点満点) ・ 試験：30 点満点 ・ 小論文：3 回 各 20 点、60 点満点 ・ 授業発表：10 点満点			
教科書・教材	LMS システムで、予め各講義のスライド内容を配布するので、各自授業前にダウンロードすること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第 5 版』 ピーター・バーンスタイン 「リスク」上下 日経ビジネス文庫 中島英俊・他 「私のいち押しプロジェクト」評言社			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット1	時間/コマ数	6/4	選択・必修	選択
開催日	2017/9/9	科目名	イノベーションのためのアジャイルプロジェクトマネジメントの基礎			教員名	竹腰 重徳
		(英文表記)	Basic Agile Project Management for Innovation				

概要	激しい環境変化の中で、企業は熾烈な競争に勝ち残るために、イノベーションが求められている。イノベーションとは、新しい顧客価値を生み出すための革新の事業活動であるが、反復漸進型開発、チームワーク、「失敗に学ぶ」等の特徴とするアジャイルプロジェクトマネジメント（APM）は、イノベーションを成功裏に実現するために必須の手法である。イノベーションを成功に導く APM 手法を学ぶ。			
目的・狙い	<p>本授業は、学習者が I T 分野や製品開発における実際に活用できるプロジェクト管理技術を習得することを目的とする。実務課題を見つけ、理論を実践に適用できるようになることも狙い目の一つである。</p> <p>具体的には、学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得できる。</p> <ol style="list-style-type: none">1. イノベーションとそれを実現するプロセスについて理解する2. アジャイルの原則とマインドセットを理解する3. アジャイルプロジェクトマネジメントを理解する4. アジャイル・ステークホルダーとその役割について理解する5. アジャイル導入時の課題と導入方法について理解する <p>PDU 申請のサブカテゴリ区分</p> <p>「リーダーシップ」：1.5PDU</p> <p>「テクニカル・プロフェッショナルマネジメント」：4PDU</p> <p>「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：0.5PDU</p>			
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理について基本的な知識があること。			
到達目標	上位到達目標			
	イノベーションを含む実務課題を見つけてアジャイルプロジェクトを立ち上げる。			
	最低到達目標			
具体的なアジャイルプラクティスを 1 つでも持ち帰って実務適用をおこない、自分で学習サイクルを回せる（失敗から学べる）ようになる。				
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業			
	対面授業	講義（双方向）	◎	講師からは情報伝達よりも主に問いかけをおこない、常時双方向でのオープンな議論を展開する（ゼミ形式）
		実習・演習（個人）	○	
		実習・演習（グループ）	○	テーマに関してグループ（人数が少ない場合はクラス）で議論をおこなう
	サテライト開講授業			
	その他			
授業外の学習				
授業の内容	次のページ参照			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1回	講義概要の説明と自己紹介：講義の目的と学習内容の解説し、講義内容に反映するために、受講者の要望事項を聴く。 イノベーション：イノベーションとは、イノベーションの必要性、イノベーション創出アプローチ、デザイン思考、理解度クイズ アジャイルの原則とマインドセット：アジャイルの出現の背景、アジャイルの原点	無	対面
	第2回	アジャイルマニフェストの価値観と原則、アジャイルの価値、 アジャイル方法論：スクラム、XP、リーン、カンバン、理解度クイズ アジャイルプロジェクトマネジメント：アジャイルプロジェクトマネジメントとは、	無	対面
	第3回	アジャイルプロセス、ビジョニング、ユースストーリー、見積り、リリース計画、 反復プロセス、リスク、品質、契約、事例、理解度クイズ	無	対面
	第4回	アジャイル・ステークホルダーとその役割：アジャイルチームの役割、自己組織的 チーム、チームビルディング、アジャイルリーダーシップ、理解度クイズ アジャイル導入課題と導入方法：アジャイル導入の阻害要因、アジャイル導入の進め方、アジャイル導入成功事例、アジャイル導入成功要因	無	対面
成績評価	次の2つのポイントで評価する(合計 100 点満点) ・ 講義での質問や発言 (60%) ・ 試験 (理解度クイズ) (40%)			
教科書・教材	毎回の講義資料は LMS システムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること			
参考図書	丹羽清、イノベーションの実践論、東京大学出版会、2010 ジョンコッター、企業変革力、梅津祐良訳、日経 BP 社、2011 Mark Layton, Agile Project Management for Dummies, Wiley, 2012 Mike Griffiths, PMI-ACP® Exam Prep 2 nd Edition, RMC, 2015 Jim Highsmith, Agile Project Management V2, Addison-Wesley, 2010			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット1	時間/コマ数	6/4	選択・必修	選択
開催日	2017/9/18(月祭)	科目名 (英文表記)	リアルタイム PM シミュレータ PM Practice by the Simulation tool.			教員名	酒森 潔

概要	<p>本講義ではスイスの STS 社が開発したプロジェクトシミュレータ SimulTrain を使って、ゲーム感覚でリアルタイムにプロジェクトマネジメントの実践を体験します。</p> <p>プロジェクトのストーリーはある企業の財務システムをあなたの演じる PM と 3 人の専任コアメンバーと、タスク単位で雇えるサブメンバーで構築するものです。プロジェクトのスケジュールや見積もりすでに終わっているの、個人スキルを考慮したタスクヘアサイン、リスク分析と対応計画、品質計画などを考えてプロジェクト計画を作成するところからプロジェクトが開始します。プロジェクトは約 11 週間のものですが、受講者はチームで一人の PM の役を演じ、人のアサインや実行中 PC の画面に現れる各種の課題に答えていきます。この判断やリスク対応、品質管理などの PM としてのアクティビティによって、メンバーのモチベーションや QCD の指標が変化します。最終的に各指標が高い値でゴール（プロジェクトの完成）したチームの勝ちとなります。</p> <p>11 週の時間を 150 分で実施するので、最初の計画作成やなにかあった時の対応が重要なポイントです。このような PM としての各種の判断や施策の実施がプロジェクトの結果に大きく影響します。</p>		
目的・狙い	<p>本講義においては、プロジェクト計画力プロジェクト実施中の即座の判断力を高めることを目的としています</p> <p>また、実施に当たっては 4 人で 1 チームで議論しながら対応策や判断を検討していきますので、コミュニケーション力やチームでの問題解決力が身に付きます。</p> <p>PDU 申請のサブカテゴリー区分：</p> <p>「リーダーシップ」： 2PDU</p> <p>「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：2PDU</p> <p>「ストラテジック&ビジネスマネジメント」： 2 PDU</p>		
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理について基本的な知識があること。		
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>(ITSS レベル 4 相当)</p> <p>プロジェクトには、予定通りには進まない様々な制約やリスクが潜んでおり、それらの対応方法には正解は無く、プロジェクトごとにあるいは実行中の状況や場面によって異なるものであるということを理解する。そして状況に応じた適切な判断を自ら行う事が出来るようになる。</p> <p>最低到達目標</p> <p>(ITSS レベル 3 相当)</p> <p>リアルタイム型の擬似プロジェクトを実践し、状況判断、問題分析、タイムリーな解決策の策定などプロジェクトマネジメント能力が重要なことを理解できる。</p>		
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		
	対面授業		
	講義（双方向）		
	実習・演習（個人）		
	実習・演習（グループ）	◎	
	サテライト開講授業		
	その他		
授業外の学習	なし		
授業の内容	講義は、STS 社のオンラインシミュレータの実施を中心に行う。		

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	本講義のガイダンスと簡単な PM の講義 ：本講義のガイダンスおよび、プロジェクトの基礎知識やクリティカルパスに関する知識の講義をおこなう。	無	対面
	第 2 回	シミュレータプロジェクトについての説明と計画作成 ：本講義で実施するプロジェクトシミュレータについてその目的や制約などについて説明し、あわせてステークホルダーマネジメントやリスクマネジメントの方法についても解説する。。	無	対面
	第 3 回	シミュレータプロジェクト準備と前半の実行 ：最終的なシミュレータの設定を確認し、シミュレータの前半部分を実施する。プロジェクト実施に必要な PM としての判断対応を実践する。また E V M によるプロジェクト管理にもチャレンジする。	無	対面
	第 4 回	シミュレータプロジェクト後半の実行と反省会 ：グループでシミュレータの前半部分の反省に基づき、後半部分の計画の見直しや戦略の策定をおこなったのち、後半部分を実施する。終了後実行結果について結果を分析する。	無	対面
成績評価	次の項目の合計 100 点満点で評価する シミュレータの各指標の値や発表資料			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 講義資料は当日配布する			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第 5 版』			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット1	時間/コマ数	14/9.33	選択・必修	選択
開催日	2017/9/30～10/1	科目名 (英文表記)	PMBOK®徹底読み解き PMBOK®Guide Navigation			教員名	石井 浩靖 酒森 潔

概要	プロジェクトマネジメントのデファクトスタンダードである「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)」の概要を解説すると共に、実際のプロジェクトの現場で活用されているプロジェクトマネジメントの知識体系としてプロセス、ツール、技法を PMBOK®共通の用語を通じて理解する。授業では、実務事例の紹介を多く取り入れて具体的なプロジェクト計画や管理の方法をナビゲーションする。		
目的・狙い	<p>この授業は、PMBOK®ガイドの学習における入門編であり、プロジェクトマネジメント知識体系の全体像を俯瞰する形で理解することを目的としている。また、PMP 認定試験受験者を計画している受講者には試験対策も兼ねている。</p> <p>具体的に受講者は、次の知識を修得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プロジェクトの立上げから終結までの5つのプロセス(立上げ、計画、実行、監視、終結) 2 PMBOK®ガイドの9つの知識エリア(統合マネジメント、スコープ・マネジメント、タイム・マネジメント、コスト・マネジメント、品質マネジメント、人的資源マネジメント、コミュニケーション・マネジメント、リスク・マネジメント、調達マネジメント) <p>PDU 申請のサブカテゴリー区分：</p> <p>「リーダーシップ」：2PDU 「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：10PDU 「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：2PDU</p>		
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理についてある程度の知識があること。		
到達目標	上位到達目標		
	(ITSSレベル4相当) PMBOK®ガイドの章の構成や、記述内容の概要について理解する		
	最低到達目標		
	(ITSSレベル3相当) PMBOK®ガイドの章の構成や、記述内容の概要について理解する		
授業の形態	形態		実施
	録画・対面混合授業		
	対面 授業	講義(双方向)	○
		実習・演習(個人)	◎
		実習・演習(グループ)	
	サテライト開講授業		
	その他		
授業外の学習	事前に PMBOK®ガイドを読んでくこと。		
授業の内容	本講義は、PMI 発行の「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)」の概要を解説すると共に、実際のプロジェクトの現場で活用されているツール、技法を実例をまぜながら解説し、かつ PMBOK®共通の用語を通じて理解する。授業では、実務事例の紹介を多く取り入れて具体的なプロジェクト計画や管理の方法をナビゲーションする形で進める。毎回講義の重要ポイントの理解度確認のためのミニテストを課す		

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	PMBOK®ガイド 第 1 章～第 3 章 ・PMBOK®ガイド 概要解説 ・プロジェクトとは何か、プロジェクトマネジメントとは何かを学ぶ ・プロジェクトを取り巻く環境の解説	無	対面
	第 2 回	PMBOK®ガイド 第 4 章 ・プロジェクト統合マネジメントを学ぶ	無	対面
	第 3 回	PMBOK®ガイド 第 5 章 ・プロジェクト・スコープ・マネジメントを学ぶ	無	対面
	第 4 回	PMBOK®ガイド 第 6 章 ・プロジェクト・タイム・マネジメントを学ぶ	無	対面
	第 5 回	PMBOK®ガイド 第 7 章 プロジェクト・コスト・マネジメントを学ぶ	無	対面
	第 6 回	PMBOK®ガイド 第 8 章－ 9 章 プロジェクト品質マネジメント、プロジェクト人的資源マネジメントを学ぶ	無	対面
	第 7 回	PMBOK®ガイド 第 1 0 章－ 1 1 章 プロジェクトコミュニケーションマネジメント、プロジェクト・リスクマネジメントを学ぶ	無	対面
	第 8 回	PMBOK®ガイド 第 1 2 章－ 1 3 章 プロジェクト調達マネジメント、プロジェクト・ステークホルダーマネジメントを学ぶ	無	対面
	試験	各回にミニテストを行う		
成績評価	講義時の各章のミニテスト 1 0 点× 1 0 回 = 1 0 0 点			
教科書・教材	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK ガイド）第 5 版』（PMI、2013 年、ISBN-978-162825-003-3）US\$65.95			
参考図書				

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット2	時間/コマ数	12/8	選択・必修	選択
開催日	2017/10/8～9	科目名 (英文表記)	受注プロジェクトの管理 Project Management for supplier point of view			教員名	酒森 潔

概要	グローバルなプロジェクトマネジメントの標準としては PMBOK が浸透してきたが、この体系で定義されているプロジェクトマネジメントプロセスは、ユーザ企業におけるプロジェクトマネジメントを想定している。しかし、国内ではプロジェクトを受注して実行する例が多い。この場合プロジェクトマネジメントのプロセスには、提案活動、収入の管理、利益管理など PMBOK のプロセスには無い重要なプロセスが存在する。 本講義は、このようなベンダー系の受注型プロジェクトに必要なプロジェクトマネジメントのプロセスを PMBOK のプロセスと比較しながら整理し説明する。			
目的・狙い	受注プロジェクトのプロジェクトマネジメントに必要な、PMBOK に記述のない受注者の視点でのプロジェクト契約やプロジェクト管理について学ぶことができる。 この講義を通じて、受注プロジェクトのプロジェクト活動全体の流れを理解して、実務に活用できるようになる。 PDU 申請のサブカテゴリー区分　： 「リーダーシップ」：　2PDU 「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：8PDU 「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：2PDU			
前提知識 (履修条件)	本講義の対象者は、受注企業でプロジェクトを経験したことがある、あるいはユーザ企業の立場で受注プロジェクトを管理しており、プロジェクトマネジメントの基本的な知識は理解していること。			
到達目標	上位到達目標			
	(ITSS レベル 4 相当) 中規模の受注型システム開発プロジェクト（100 人月程度）を提案活動から納入まで PM として実行できるようになる。 情報処理技術者プロジェクトマネージャ試験に合格する。			
	最低到達目標			
	(ITSS レベル 3 相当) あまり問題や制約のない小規模の受注型システム開発プロジェクト（10 人月程度）を受注企業の PM として実行できるようになる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業			
	対面 授業	講義（双方向）	◎	講義中はオープンに質疑応答を受け、毎回の講義レポートのフィードバックを行う
		実習・演習（個人）	○	単独で行う演習を入れる
		実習・演習（グループ）	○	単独で行った演習をチームでまとめて発表する
	サテライト開講授業			
その他				
授業外の学習	事前に LMS に掲載する講義資料に目を通して授業に臨むこと。また、毎回配布する復習レポートに、授業のまとめ・意見を書いて提出すること。			
授業の内容	本講義は、一般的な受注型プロジェクトの立ち上げから終了までを、プロジェクトの実施手順に従って、PMBOK のプロセスと受注型プロジェクトの違いを中心に解説する。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	プロジェクトのオポチュニティマネジメントから受注まで（その 1）： ・ベンダー企業のプロジェクト受注戦略とオポチュニティマネジメント	無	対面
	第 2 回	プロジェクトのオポチュニティマネジメントから受注まで（その 2）： ・プロジェクト提案活動 ・プロジェクト受注活動（課題 1 ステークホルダーマネジメント）	無	対面
	第 3 回	プロジェクト計画（その 1）： ・提案書をもとにしたプロジェクト計画作成 ・プロジェクト計画の合意作業	無	対面
	第 4 回	プロジェクト計画（その 2）： ・プロジェクトコスト計画 ・プロジェクトリスクマネジメント（課題 2 プロジェクト提案価格策定）	無	対面
	第 5 回	プロジェクトの実行（その 1）： ・プロジェクトの進捗報告	無	対面
	第 6 回	プロジェクトの実行（その 2）： ・問題管理と変更管理 ・プロフィットマネジメント（課題 3 顧客報告）	無	対面
	第 7 回	プロジェクトの終結（その 1）： ・プロジェクトの終了基準の合意 ・プロジェクト終了処理	無	対面
	第 8 回	プロジェクトの終結（その 2）： ・顧客満足度調査 ・自社内の契約終結手続き ・瑕疵責任と障害対応計画（課題 4 リスクマネジメント）	無	対面
成績評価	4 つの課題について評価する(合計 100 点満点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題 1 20 点 ・ 課題 2 40 点 ・ 課題 3 20 点 ・ 課題 4 20 点 			
教科書・教材	講義の進捗に合わせて、紙媒体およびデータで配布する			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK ガイド）第 5 版』（PMI、2014 年、ISBN-978-1-933890-68-5）US\$65.95 https://www.pmi-japan.org/bookstore/pm_std/pmbok5_1.php			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット2	時間/コマ数	22.5/15	選択・必修	選択
開催日	2017/10/7～11/25 録画受講＋毎週土曜日	科目名	システム開発プロジェクト管理 【プロジェクト管理特論2】			教員名	酒森 潔
		(英文表記)	System development project management 【Project Management 2】				

概要	<p>情報システム構築におけるプロジェクト管理の進め方を、情報処理推進機構が発行している「高度情報化人材育成標準カリキュラム プロジェクトマネージャ」を基準に学習する。授業では、体系化された情報システム構築プロジェクトのカリキュラムでプロジェクト管理の知識を網羅的に整理しながら、実務事例の紹介を多く取り入れて具体的なプロジェクト計画や管理の方法を指導する。また、演習などを通してプロジェクト管理の知識をどのように実務に適用するか考えていくことで、知識と実践力の橋渡しを実現することを方針とする。</p> <p>本講義の2回に1回は学習者が都合の良い時間と場所でオンデマンドの動画を使って学習することができるように設計されている。週に1回土曜の大学院での講義は出席が必須であり、教員との対話や演習を交えた講義をおこなう。この方法によって学習者のペースで、かつ教員や他の学習者とも密なコミュニケーションをとることが可能としている。</p>			
目的・狙い	<p>この授業は、学習者が実際に活用できるIT分野におけるプロジェクト管理技術を習得することを目的とする。実務の事例やプロジェクトマネジメントのグローバル標準であるPMBOKの知識体系との関係を体系的に整理し、理論を実践で適用できるようになることも狙い目の一つである。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A4) K-04-13-01 開発プロセス・手法(レベル4) ソフトウェア開発モデル, アジャイル開発, SLCP</p> <p>(A3) K-05-14-01 プロジェクトマネジメント(レベル4) プロジェクト, プロジェクトマネジメント, プロジェクトライフサイクル</p> <p>～</p> <p>(A3) K-05-14-11 プロジェクトコミュニケーションマネジメント(レベル4) コミュニケーションの計画</p> <p>(A4) K-07-18-03 調達計画・実施(レベル4)</p> <p>PDU申請のサブカテゴリー区分:</p> <p>「リーダシップ」: 4.5PDU</p> <p>「テクニカル・プロジェクトマネジメント」: 13.5PDU</p> <p>「ストラテジック&ビジネスマネジメント」: 4.5PDU</p>			
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理について十分な知識があること。			
到達目標	上位到達目標			
	(ITSS レベル4 相当)			
	中規模のアプリケーション開発プロジェクト(100人月程度)をPMとして実行できるようになる。 情報処理技術者プロジェクトマネージャ試験に合格する。			
	最低到達目標			
	(ITSS レベル3 相当)			
	あまり問題や制約のない小規模のアプリケーション開発プロジェクト(10人月程度)をPMとして実行できる。 大規模なITプロジェクトのPM補佐、あるいはサブプロジェクトのリーダーができるようになる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		◎	偶数回の講義は録画講義を自分のペースで受講する、質問などはLMSまたは奇数回の対面講義で受け付ける。土曜日の対面講義は品川キャンパスで自宅学習の復習と演習を中心に行う。
	対面授業	講義(双方向)		
		実習・演習(個人)		
		実習・演習(グループ)		
	サテライト開講授業			
その他				
授業外の学習	本講義は事前にLMSに掲載した講義資料と録画講義で自分のペースで理解できるまで学修しておくこと。学習レベルの確認のために講義受講後LMSで理解度テストを受講する。また、次回の対面講義までに質問事項などを準備して、対面講義で活用する。			
授業の内容	本講義は、情報処理推進機構(IPA)が発行したPMカリキュラムにもとづいて作成した独自のレジюмеで行う。 毎回講義の重要ポイントの理解度確認のための復習レポートを課す			

	回数	内容	サテライト開講	対面録画
授業の計画	第1回	講義概要の説明と受講者のスキル診断 ：講義の目的と学習内容の解説し、学生が講義選択の判断ができるようにする。また、授業内容に反映するために、受講者のPMスキルの確認アンケートを行う。	無	対面
	第2回	プロジェクトの立上の講義 ：日本における情報システム開発プロジェクトの特徴や、プロジェクトが生まれる仕組みについて解説する。	無	録画のみ
	第3回	プロジェクトの立上のまとめと演習 ：システム開発プロセスについて議論し、プロジェクトマネジメントを実施するうえでの考慮点について理解する。	無	対面
	第4回	スコープ定義とスケジュール作成の講義 ：プロジェクトスコープの定義を行いWBSとプロジェクトスケジュール作成するまでを解説する。	無	録画のみ
	第5回	スコープ定義とスケジュール作成のまとめと演習 ：WBSとスケジュール作成について事例を解説し簡単な演習を通して理解を深める。	無	対面
	第6回	要員計画とコスト計画の講義 ：要員の投入計画を調整しながらスケジュールを確定しコスト計画を作成するプロセスを講義する。	無	録画のみ
	第7回	要員計画とコスト計画のまとめと演習 ：確定したスケジュールに要員を割り当てながら再調整しコストを確定する方法について演習を交えたまとめをおこなう。	無	対面
	第8回	プロジェクト計画書完成に関する講義 ：品質管理計画やリスク管理計画について学びこれらをプロジェクト計画の中に加味し最終的なプロジェクト計画書としてまとめるプロセスを講義する。	無	録画のみ
	第9回	プロジェクト計画書完成に関するまとめと演習 ：これまでに作成したプロジェクトスケジュールにリスクを加味しながら最終的なプロジェクト計画を完成する演習を行う。	無	対面
	第10回	プロジェクトの進捗管理の講義 ：プロジェクトの進捗情報を把握するための実績情報の収集方法やその分析方法について講義する。	無	録画のみ
	第11回	プロジェクトの進捗管理のまとめと演習 ：進捗管理の仕組みについてまとめと、EVM計算演習、ガントチャートやイナズマ線の作成演習をおこなう。	無	対面
	第12回	プロジェクトの実行管理の講義 ：プロジェクトを予定通りに進めるための変更管理、問題管理、リスク管理などの方法について講義する。	無	録画のみ
	第13回	プロジェクトの実行管理のまとめと演習 ：変更管理の仕組みについて理解し演習事例で対応方法を議論する。	無	対面
	第14回	プロジェクトの終結・調達終結の講義 ：情報システムの移行計画や移行作業の管理、調達の終結やそのほかのプロジェクト終結作業について講義する。	無	録画のみ
	第15回	プロジェクトの終結・調達終結のまとめと演習 ：プロジェクト終結時に必要な作業について議論し、プロジェクト完了判定基準について演習を行う。	無	対面
成績評価	次の2つのポイントで評価する(合計100点満点) <ul style="list-style-type: none"> 課題 40点 第9回の演習で作成したプロジェクト計画書の完成版を提出すること 期末試験 60点 最終回に情報処理技術者試験PM午後I記述式問題レベルの試験を行う 			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 毎回の講義資料はLMSシステムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第5版』 https://www.pmi-japan.org/bookstore/pm_std/pmbok5_1.php			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット2	時間/コマ数	28/20	選択・必修	選択
開催日	2017/10/15,22,11/5,12 日曜日(4回開催)	科目名 (英文表記)	実践プロジェクトマネジメント演習 Project Management Practice			教員名	酒森 潔 三好きよみ

概要	プロジェクトを成功裡に完了させるプロジェクトマネジメントの方法論やツールを実務で活用する良い機会に恵まれないため、自己流やその場しのぎのマネジメントを余儀なくされる例が数多くある。このような部分的なプロジェクトを数多く体験することでレベルの高いPMに育つのである。しかしそのためには長い年月が必要とされる。この講義は、ある程度規模が大きくいろいろな方法論やツールを適用する環境を持つ模擬プロジェクトをシナリオに沿って実施することで、プロジェクトマネジメント力を効果的に学習する。 一連の演習内容はIPAのプロジェクトマネジメントのカリキュラムに準拠しており、演習では情報処理技術者試験で想定しているプロジェクトマネジメントの各場面を多く取り上げている。				
目的・狙い	プロジェクト実施により身に付けるべき達成目標、到達目標は以下の通りである ● プロジェクトの推進プロセスにおいて、プロジェクトマネジメントの知識や方法を実際の作業に適用できる。 ● プロジェクト計画の重要性を理解し、計画を立案・作成できる。 ● プロジェクトの進行において、進捗管理、変更管理、問題管理を行うことができる。 ● リスクマネジメントや、品質マネジメントを理解し実践できる。 ● プロジェクトの進行において、適切なステークホルダマネジメントができる。 これらの作業を実施することで、情報処理技術者試験プロジェクトマネージャの試験に合格することを目指す。 PDU申請のサブカテゴリー区分： 「リーダーシップ」：8PDU 「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：12PDU 「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：8PDU				
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理についてある程度の知識があること。 演習に当たっては個人のノートPCを持参できることが望ましい				
到達目標	上位到達目標 (ITSSレベル4相当) ある程度の大きさのシステム構築プロジェクトを自らPMとして実施できるようになる 情報処理技術者試験プロジェクトマネージャの試験に合格する				
	最低到達目標 (ITSSレベル3相当) ある程度の大きさのプロジェクト活動でPMとして行う作業について理解できる。またPMの補佐ができるようになる。				
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業				
	対 面 授 業	講義(双方向)			
		実習・演習(個人)			
		実習・演習(グループ)	◎	単独で行った演習をチームでまとめて発表する	
	サテライト開講授業				
その他					
授業外の学習	演習の進捗に合わせて多くの資料の分析や、インターネットを使用した調査などを行う。 また、演習やプレゼンテーション準備は各自持ち帰っての分担作業となるものもある。				
授業の内容	講義で想定するプロジェクトは、ユーザ企業が発注するシステム開発プロジェクトを、ベンダー企業の立場で提案から受注、計画策定、システム構築、納品、そして本番稼働させるまで一連の工程をPMとして実施するものである。実際にプログラムを作成したり、稼働させたりするところはないが、限られた時間に仮想プロジェクトを通じて必要なプロジェクトマネジメント作業を徹底して学ぶ。プロジェクトに必要な様々なドキュメントを作成したり、ユーザと交渉したり、上司レビューを受けながら、ベンダーのシステム構築プロジェクトにおける典型的なプロジェクトマネジメント活動を体験する。 講義はPBL方式で学生中心に進めていくので、講義時間などの調整は可能である。				

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1日	模擬プロジェクトの実施の理解と提案書作成: チームのメンバーの自己紹介を行い、模擬プロジェクト実施について概要を理解する。受注業者からの RFP を理解する。記載内容だけでなく、自社の戦略や発注者のプロジェクトの背景、業界分析などを行う。提案に必要なプロジェクト計画を作成する。必要であれば顧客ヒアリングを行い RFP の理解を深める。作成したプロジェクトスケジュールをもとに、プロジェクトコストを算出し、リスクや社内戦略を加味して提案書を作成する。チーム内で上司レビューの模擬練習を行う	無	対面
	第2日	顧客への提案からプロジェクト計画作成: 最終的な提案書を完成させ顧客へプレゼンテーションを行う。契約書が取れたらプロジェクト計画を確認し顧客と合意する。プロジェクトスコープを基に、WBS、スケジュールチャートを作成する。作成したスケジュールを基に要員のアサインを行う。要員や物資の外部調達計画を作成する。計画を確実なものにするために、早目に外部企業からの見積もりをとり契約を確定する。	無	対面
	第3日	プロジェクト計画書完成: これまでの作成したプロジェクト計画策定内容や、契約時の前提事項などを精査し、プロジェクトのリスクを検討する。また、プロジェクトの特徴や、発注者、自社の基準などを加味して、プロジェクトの変更管理手順を作成し顧客と合意する。さらに、プロジェクト活動の実施に必要なコミュニケーション計画やプロジェクトの品質管理方針を作成する。これまで作業をまとめプロジェクト計画書を完成させる。完成した計画を元にキックオフ会議を実施する。	無	対面
	第4日	プロジェクトの実施: 計画書を基準にプロジェクトの進捗状況を EVM で検討し報告する。また、品質管理方針にしたがった品質状況の分析を行い必要なアクションをとる。さらに変更管理手順にしたがって変更管理をおこなう。変更要求の事例をもとに検討会を実施する。また統合テスト結果から進捗状況や品質を分析し、対応策を検討できるようになる。最終的に移行計画に基づいて受け入れテスト、移行作業をおこないプロジェクトを完了する。	無	対面
成績評価	模擬プロジェクト実施中の成果物、およびプレゼンテーションにより評価する			
教科書・教材	PBL の進め方のガイドを配布する。また各セッションのサンプル資料を LMS で配布するので各自ダウンロードすること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK ガイド）第5版』（PMI、2014年、ISBN-978-1-933890-68-5）US\$65.95			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット2	時間/コマ数	6/4	選択・必修	選択
開催日	2017/12/2	科目名 (英文表記)	事例研究 Project Management Case Study			教員名	持田 敏之

概要	本科目は、IT プロジェクト事例を通して PMBOK の振り返りを行い、プロジェクトマネジメント全般に関する理解を深めることを狙いとする。取り上げる事例は教員の実経験に基づくものも含め、臨場感ある内容に仕立てあげている。事例を通して、プロジェクト遂行の課題や失敗原因を掘り下げ、プロジェクトを成功に導くためには何が重要なのかを体得することを目指している。また、理解度を高めるために授業形式にはグループ演習も取り入れ、グループ内のディスカッションを通じた知識の補完、コミュニケーション力強化、及び発表を通じてのプレゼンテーション力強化も狙いとする。			
目的・狙い	本授業は、以下を目的とする。 <ul style="list-style-type: none">・ PMBOK の概要を理解し、さらに知識を深める。・ PMBOK の実践への応用力を習得する。・ 一般的なプロジェクトの成功率と失敗の主たる原因を知る。・ プロジェクトのトラブル事例間の共通点を理解する。・ トラブル回避策の立案方法、回避にむけた具体策を習得する。・ プロジェクトマネジャーに求められるスキルを確認する。・ 教訓のまとめ方を学ぶ。 PDU 申請のサブカテゴリー区分 <ul style="list-style-type: none">・ リーダーシップ 2PDU・ テクニカル・プロジェクトマネジメント 2PDU・ ストラテジック&ビジネスマネジメント 2PDU			
前提知識 (履修条件)	PMBOK に関して概要を理解していること。			
到達目標	上位到達目標			
	<ul style="list-style-type: none">・ プロジェクト事例を読み取り、問題の整理、原因追及、問題回避の策を立案できる。・ 事例研究で得られた知識を自ら関わるプロジェクトに応用し、トラブルの未然防止に役立てることができる。			
	最低到達目標			
	<ul style="list-style-type: none">・ 事例の整理の仕方、および教訓のまとめ方について説明ができる。・ IT プロジェクトの特徴について説明、解説ができる。・ プロジェクトマネジャーに求められるスキルについて解説できる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		◎	講義中に理解力を確認するため章ごとのまとめを行い、それに伴う受講者間の意見交換や質疑応答の時間を設ける
	対面授業	講義（双方向）		
		実習・演習（個人）		
		実習・演習（グループ）		
	サテライト開講授業			
その他				
授業外の学習	特になし			
授業の内容	本講義は、第 1 回～第 4 回で構成され、第 1 回と第 2 回は、主に講義形式で IT プロジェクトの特徴や成功に向けた課題などを確認する。第 3 回と第 4 回はプロジェクト事例に基づいて、教訓のまとめ方、プロジェクトを成功に導くためのポイントなどを習得する。各回の主な内容は以下のとおりである			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	IT プロジェクトの特徴、成功確率の理解 ・ 講義の目的と構成、および進め方について解説する ・ 事例研究の対象となる IT プロジェクトの特徴について解説する ・ IT プロジェクトの一般的な成功確率を知り、失敗の原因について検討する ・ 事例の読み解き方について学ぶ ・ IT プロジェクトの成功/失敗要因と PMBOK との関連を確認する	無	対面
	第 2 回	IT プロジェクトの概要、プロジェクトマネジャーに求められるスキル ・ 一般的な事例を取り上げ、IT プロジェクトの概要を理解する ・ プロジェクトマネジャーに求められるスキルについて理解する ・ 経験と教訓の関係について解説する ・ 教訓の残し方について検討する	無	対面
	第 3 回	事例 1 の研究と発表 ・ 事例 1 についてグループ別に検討し、発表とディスカッションを行う ・ お互いの発表から得られた気づきについて討議する ・ グループ別に内容についての見直しを行う ・ グループ演習の成果、および発表についての講評を行う	無	対面
	第 4 回	事例 2 の研究と発表、およびまとめ ・ 事例 2 についてグループ別に検討し、発表とディスカッションを行う ・ お互いの発表から得られた気づきについて討議する ・ グループ別に内容についての見直しを行う ・ グループ演習の成果、および発表についての講評を行う ・ 講義全体を通じたまとめを行う ・ 提出レポートについての解説を行う。 提出時期は講義終了の 1 週間後を目安とする	無	対面
成績評価	1. 提出レポートの評価 100 点 2. その他、演習の取り組み姿勢や発表内容等により加点を行う = 最大 10 点 ・ 合計 100 点満点で 60 点以上を合格とする			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 毎回の講義資料は LMS システムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第 5 版』 https://www.pmi-japan.org/bookstore/pm_std/pmbok5_1.php			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット3	時間/コマ数	24/16	選択/必修	選択
開催日	2017/12/6～2018/2/7	科目名	プロジェクトマネジメントのツールと技法 【プロジェクト管理特論3】			教員名	酒森 潔
		(英文表記)	Project Management Tools and techniques 【Project Management 3】				

概要	本講義は、情報システム開発プロジェクトにおいて主要なツールである、ファンクションポイント、WBSとスケジュール、アード・バリュー・マネジメント、品質管理に焦点を当て実務で活用できる実践的な能力を身に着ける講義である。講義は学ぶツール別に大きく4つに分かれており、それぞれのツールごとに講義と演習を交互に行いながら進められる。 具体的には、金曜日に4つのツールの知識や実践方法を講義形式で学習し知識のまとめを行い、水曜日に実際に実践する演習を行う。したがって金曜講義は品川キャンパス、ビデオ録画視聴のいずれの方法でも受講可能であるが、水曜日講義は品川シーサイドのキャンパスで対面方式で行う。			
目的・狙い	<p>情報システム構築プロジェクトにおけるプロジェクト管理の各局面で、次のような手法や方法論が具体的にどのようなに使われているか理解すると共に、自ら活用できるようになる。また、これらの技法を支援する市販ソフトウェアにどのようなものがあるか理解し、自分のプロジェクトに合ったツールが選択できるようになる。</p> <p>1.ファンクションポイント法などの見積もり法 2.WBS・スケジュール作成ツールの作成方法・使用方法 3.アード・バリュー・マネジメントについての理解と活用方法 4.品質管理技法</p> <p>PDU 申請のサブカテゴリー区分： ・「リーダーシップ」：0PDU ・「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：24PDU ・「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：0PDU</p>			
前提知識 (履修条件)	プロジェクト管理特論2を履修しているか、相当のプロジェクトマネジメントに関するスキルを有すること。 学習テーマである FP、WBS、スケジューリング技法、EVM、品質管理技法について基本的な知識を有すること。 マイクロソフトオフィスの EXCEL（または相当のソフトウェア）を使用できること。			
到達目標	上位到達目標			
	(ITSS レベル4 相当) プロジェクトマネジメントの最先端の技法（FP、WBS、スケジューリング、EVM、品質管理）について指導できるようになる。 PMP 試験、情報処理技術者プロジェクトマネージャ試験合格できる			
	最低到達目標			
	(ITSS レベル3 相当) プロジェクトマネジメントの先端技術（FP、WBS、スケジューリング、EVM、品質管理）を実務に適用出来るようになる			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		◎	金曜の講義は録画講義を自分のペースで受講することができる。質問などは LMS または水曜の対面講義で受け付ける。水曜の対面講義は品川シーサイドキャンパスで自宅学習の復習と演習での活用実践を中心に行う。
	対面授業	講義（双方向）		
		実習・演習（個人）		
		実習・演習（グループ）		
	サテライト開講授業			
その他				
授業外の学習	講義の数日前に講義資料を LMS に掲載するので、事前にテキストに目を通し当日印刷して持参すること。講義終了後は理解できたことを確認し、理解できないところがある場合は次の講義までに録画ビデオやテキストを確認しておくこと。 また、金曜の講義を録画視聴した場合、終了後 LMS の理解度テストで合格点を取ったものを出席とみなす。4 つのツールの学習の修了ごとに課題を課すので、決められた期間内に提出すること。			
授業の内容	本講義はプロジェクトマネジメントに必要な、ファンクションポイント、WBS とスケジュール作成、EVM、品質管理についての講義および演習から構成されている。それぞれのテーマについて講義、個人演習、グループ討議、個人でのレポート提出というサイクルを繰り返しながら進められる。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	講義解説とファンクションポイントの講義：本講義の目的、学習内容、課題、評価方法などの解説し、学生が講義選択の判断ができるようにする。また、見積もり方法やファンクションポイント法の基本について講義を行う。	—	録画
	第 2 回	ファンクションポイント法の演習：ファンクションポイントを使った見積手法について、その考え方を理解し簡単な利用ができるような演習をおこなう。	—	対面
	第 3 回	ファンクションポイント法（IFPUG 法）の講義：実際にファンクション数を数える IFPUG 法について簡単な例を使用して解説する。次回の演習課題も提示するので各自考えておく。	—	録画
	第 4 回	ファンクションポイント法の演習：実務レベルのシステムの設計書をもとに、IFPUG 法によるファンクションポイント計測と工数見積りの演習を行う。与えられた課題を完成させ 1 週間以内にレポートとして提出する。	—	対面
	第 5 回	WBS に関する基礎講義：WBS に関して基本的な知識を講義する。特に日本的な文化と WBS の考え方などについての知識を深める。WBS やスケジュール作成課題のケースについて説明するので次回までに理解してくること。	—	録画
	第 6 回	WBS 作成演習：前回指示した課題の WBS の作成演習を行う。またサンプルとして提示した WBS を使って、スケジュールを作成する演習を行う。MS-Project の使用法を説明するので、WBS やスケジュール作成に活用できるようになる。	—	対面
	第 7 回	スケジュールに関する基礎講義：スケジュールに関して、ガントチャートやネットワークダイアグラムの作成方法、クリティカルパスメソッド法、スケジュール短縮技法などについて講義を行う。	—	録画
	第 8 回	スケジュール作成：ウッドデッキプロジェクトのスケジュール作成演習を実施する。MS-project を使ってスケジュールを作成し、さらにわかりやすいスケジュールの説明資料作成を行う。（各自宿題としてスケジュールを作成し提出する）	—	対面
	第 9 回	アーンド・バリュー・マネジメントの講義：プロジェクトの進捗状況を管理するための手法として、スコープ・スケジュール・コストをお互いの関連を考慮しながら同時に管理できるアーンド・バリュー・マネジメント（EVM）の基本的な考え方について講義する。	—	録画
	第 10 回	アーンド・バリュー・マネジメント演習：簡単な演習を行い PMP や情報処理技術者試験レベルの基本的なアーンドバリュー計算ができることを目指す。	—	対面
	第 11 回	アーンド・バリュー・マネジメントの講義：EXCEL で作成した WBS を利用して、実務でアーンドバリューマネジメントを実施する方法について講義を行う。	—	録画
	第 12 回	アーンド・バリュー・マネジメント演習：EVM と WBS を組み合わせた演習をおこない EVM の理解を深めるとともに、実務において WBS の作成と組み合わせた EVM を使えるようになることをめざす。（演習課題は 1 週間以内に完成し提出する）	—	対面
	第 13 回	品質管理技法の講義：プロジェクト管理における品質管理の基本的な考え方を学ぶ。	—	録画
	第 14 回	品質管理技法の演習：システム開発における品質管理の代表例として、システムテスト時の障害管理をとりあげ、管理方法や報告方法の例を講義するとともに、事例に基づく品質分析と報告書作成の演習を行う。	—	対面
	第 15 回	まとめ：これまで学んできた 4 つのツールのまとめを解説する。	—	録画
	試験	試験：学んだ 4 つのツールに関して理解度と実践力を見る期末試験を行う。	—	対面
成績評価	次の 2 つのポイントで評価する(合計 100 点満点) 課題 60 点 第 4 回、8 回、12 回、15 回の演習の提出課題をそれぞれ 15 点満点で採点する。 期末試験 40 点 最終回に今回学んだ基本的な事項に関する試験を行う。			
教科書・教材	教科書は特に指定しない。 毎回の講義資料は LMS システムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること。			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第 5 版』 https://www.pmi-japan.org/bookstore/pm_std/pmbok5_1.php			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット3	時間/コマ数	6/4	選択・必修	選択
開催日	2017/12/16	科目名	プロジェクト・マネジャーのキャリアデザイン			教員名	三好きよみ
		(英文表記)	Career Design for Project Manager				

概要	<p>「キャリアデザイン」とは、自分自身の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計することをいいます。本科目では、プロジェクト・マネジャーとしての仕事を通じて、実現したい姿やそれに近づくプロセスを明確にしています。一般的なキャリア関連の理論を解説するとともに、演習を通じて自己理解を深め、自分の経験やスキル、性格、ライフスタイルなどを考慮した上で、キャリアデザインを行います。</p>		
目的・狙い	<p>この授業は、受講者がプロジェクト・マネジャーとして成長していくために、自分自身でキャリアデザインするための体系的知識を修得することを目的とする。具体的には、受講者は、この講義を通じて以下の知識と能力を修得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア関連の基礎理論 2. 自分の能力、なりたい姿の自己認識 3. プロジェクト・マネジャーに必要な行動特性 4. プロジェクト・マネジャーの成長プロセス <p>PDU 申請のサブカテゴリー区分：</p> <p>「リーダーシップ」：6PDU</p> <p>「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：0PDU</p> <p>「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：0PDU</p>		
前提知識 (履修条件)	出願・受講申請により受講を認められた者		
到達目標	上位到達目標		
	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・マネジャーに必要な行動特性を理解し、後輩の育成に活用できる ・キャリアデザインのための基礎知識を習得し、自分自身を評価できる ・自己理解を深め、なりたい姿になるために必要な点を明確化できる 		
	最低到達目標		
	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・マネジャーに必要な行動特性を理解する ・キャリアデザインのための基礎知識を習得し、自己理解を深める ・自分のなりたい姿を明確にする 		
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		
	対面授業		
	講義（双方向）	◎	
	実習・演習（個人）	◎	
	実習・演習（グループ）	◎	
	サテライト開講授業		
	その他		
授業外の学習	特に無し。		
授業の内容	<p>第1回 「キャリア」とは？「キャリアデザイン」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア」「キャリアデザイン」について学習する ・演習を通じて、自分の能力についての自己認識を行う ・演習を通じて、自分のなりたい姿の自己認識を行う <p>第2回 キャリア関連の基礎理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホランド、スーパー、ザビカス、シャイン、クランボルツなどのキャリア関連の基礎理論を学習する <p>第3回 プロジェクト・マネジャーに必要な行動特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・マネジャーに必要な行動特性について学ぶ ・自分自身を評価し、課題を明確にする 		

	第4回 プロジェクト・マネジャーの成長プロセス ・実際のプロジェクト・マネジャーの成長プロセスについて学ぶ ・成長していくための課題を検討する			
授業の計画	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
	第1回	「キャリア」とは？「キャリアデザイン」とは？ 自己理解を通して自分のキャリアを考える	無	対面
	第2回	キャリア関連の基礎理論 ホランド、スーパー、サビカス、シャイン、クランボルツなどのキャリア関連の基礎理論を学習する	無	対面
	第3回	プロジェクト・マネジャーに必要な行動特性 プロジェクト・マネジャーに必要な行動特性について学習する 自分自身の行動特性について評価し、課題を明確にする	無	対面
	第4回	プロジェクト・マネジャーの成長プロセス ・実際のプロジェクト・マネジャーの成長プロセスについて学ぶ ・成長していくための課題を検討する	無	対面
成績評価	1 毎回の講義の個人、グループ演習の成果 50% 2 毎回の講義での振り返りレポートの提出 50% 合計100点満点で60点以上が合格とする			
教科書・教材	特になし。講義資料を配布する			
参考図書	PMI 著、『プロジェクト・マネジャーコンピテンシー開発体系 第2版』			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット3	時間/コマ数	18/12	選択・必修	選択
開催日	2018/1/6,1/13,1/20 土曜×3日コース	科目名 (英文表記)	IT 経営プロジェクト IT Management Project			教員名	山戸 昭三

概要	企業にとって、環境変化に合わせて自らのあるべき姿に向けて経営改革をすすめていかなければならない。この授業では、経営戦略立案、IT 戦略立案、IT 資源調達、IT サービス導入、IT サービス活用を、全体最適を指向しながら推進していくための知識を獲得し、仮想企業のケース課題をチーム演習、発表を通じて学んでいく。			
目的・狙い	一般企業（事業会社）の経営改革を担当する CIO、IT 部門要員の立場で経営改革の必要性和経営戦略立案、IT 戦略立案、IT 資源調達、IT サービス導入、IT サービス活用について、全体最適を図りながら推進するプロジェクトマネジメントの知識（経営に関する原則、戦略企画書立案知識、IT 戦略企画書、実行計画書立案知識、PMBOK の 10 の知識エリアなど）とスキル（発想法、収束法、BS 法、KJ 法、SWOT 分析、BSC、COBIT、問題解決技法など）、必要なパーソナルスキル（リーダーシップ、コミュニケーションスキル、コンフリクトマネジメントスキルなど）を、座学と演習を通して理解する。 PDU 申請のサブカテゴリ区分　： 「リーダーシップ」：　4PDU 「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：6PDU 「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：8 PDU			
前提知識 （履修条件）	企業経営、戦略立案、チーム活動、アイデア発想法・収束法、コミュニケーション、プレゼンテーションなどに興味を持っていることが必要である。BS、KJ 法、SWOT 分析法、等のアイデア発想法と収束法について調べておく和良好的。知識としては、さまざまな経営戦略、BSC、COBIT、PMBOK、ITIL などについて調べておく和良好的。			
到達目標	上位到達目標 （ITSSレベル 4 相当） ・全体最適を図りながら推進するプロジェクトマネジメントの知識（経営に関する原則、経営戦略企画書、IT 戦略企画書、実行計画書立案知識、PMBOK の知識エリアなど）とスキル（発想法、収束法、BS 法、KJ 法、SWOT 分析、BSC、COBIT、問題解決技法など）、必要なパーソナルスキル（リーダーシップ、コミュニケーションスキル、コンフリクトマネジメントスキルなど）に関して、チームメンバをリードし、リーダとしての経験と教訓を得て、行動できること。			
	最低到達目標 （ITSSレベル 3 相当） ・全体最適を図りながら推進するプロジェクトマネジメントの知識（経営に関する原則、経営戦略企画書、IT 戦略企画書、実行計画書立案知識、PMBOK の知識エリアなど）とスキル（発想法、収束法、BS 法、KJ 法、SWOT 分析、BSC、COBIT、問題解決技法など）、必要なパーソナルスキル（リーダーシップ、コミュニケーションスキル、コンフリクトマネジメントスキルなど）に関して、チームメンバをリードし、リーダとしての経験と教訓を得たかについて語れること			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		—	
	対面 授業	講義（双方向）	◎	受講生からの質問事項に対して、即時または次回までに事例や関連する情報を調べて対話型で説明・質疑応答を行う。
		実習・演習（個人）	—	
		実習・演習（グループ）	◎	提示された課題について、チームとしての成果物（企画書、計画書）を纏め、チームとしての質疑応答に参加する。
	サテライト開講授業		—	
	その他		—	
授業外の学習	経営戦略立案や I T 戦略立案に際しての、様々なアイデアや外部情報の収集を行うので授業外の情報収集が必要となる。			
授業の内容	本授業は、座学-チーム演習-発表の流れを、経営戦略策定、IT 戦略立案、IT 資源調達、IT サービス導入、IT サービス活用という 5 つのフェーズで実施する。授業の各コマの初めに Power point 教材を配付する。チーム演習の最初に、仮想企業の課題を提示する。その他にも、COBIT、RFP 例などの資料を配付する。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	座学「はじめに」、「経営改革の必要性」 講義（座学、演習）の進め方、ショートレポートの提出方法、成績評価のしかたを説明する。企業とは何か、ミッションとビジョン、経営改革の必要性について、座学で説明する。	無	対面
	第 2 回	演習「SWOT 分析、あるべき姿の設定と CSF の抽出」 経営改革メンバーとして、対象企業の強みと弱み、外部環境から認識される脅威と機会を分析する。	無	対面
	第 3 回	演習と発表「経営戦略企画書の承認」 経営改革メンバーとして、現状分析を踏まえ、対象企業のあるべき姿を事業ドメインとして表現し、更にそれを実現するための CSF（主要成功要因）を抽出し経営改革目標値を決定する。その中で IT 課題を選定する。これらを経営陣に対する経営戦略企画書の発表としてプレゼンテーションを行う。	無	対面
	第 4 回	座学「IT 戦略策定」 企業にとって、あるべき姿を実現するためには、IT は必須の要件である。経営戦略を継承し他の戦略と連携を持った IT 戦略の策定方法を説明する。	無	対面
	第 5 回	演習「IT 成熟度評価と業務プロセスの改革」 対象企業の IT ガバナンスを評価し、抽出した IT 課題の実現のための業務プロセス改革（To-Be 業務フロー、DMM-DFD、UML など）を図式化する。	無	対面
	第 6 回	演習と発表「IT 戦略企画書の承認」 IT 戦略企画書を作成し、経営陣に対する発表を行い、承認を得るためのロールプレイングを行う。	無	対面
	第 7 回	座学と演習「IT 資源調達」 IT 戦略実現に向けた最適な IT 調達を実施するための方法、CMMI 等について説明する。対象企業の IT 戦略を実現するための IT 調達に関して、RFP の発行とソリューション選定のための決定手順と選定基準を設定する。	無	対面
	第 8 回	演習と発表「RFP 作成と提案評価基準設定」 発注企業として RFP 作成と提案評価基準設定を行い、IT ベンダとして提案書の作成を行い、発注企業として評価基準に基づく評価を行う。	無	対面
	第 9 回	座学と演習「IT サービス導入」 経営改革プロジェクトおよび IT システム開発プロジェクトを対象に、プロジェクトマネジメントの意義とプロジェクトマネジャーに必要な要件を説明する。IT サービス導入時に発生する諸問題について演習を行う。	無	対面
	第 10 回	演習と発表「IT サービス導入における諸問題と対応」 引き続き、IT サービス導入時に発生する諸問題について演習を行う。「プロジェクトに発生する諸問題」について発表し質疑応答する。	無	対面
	第 11 回	座学「IT サービス活用と IT 経営」 経営改革プロジェクトおよび IT サービス活用を対象に、活用における諸問題について演習を行う。	無	対面
	第 12 回	学生発表「IT 経営のまとめ」 本科目を履修して獲得できた知識・スキル・気づきについて発表する。	無	対面
成績評価	各座学回の最後にショートレポートを実施、演習ではグループ検討、プレゼンテーションを参加者が評価する「相互評価」を実施、1～2 回の宿題によって個人の調査・プレゼンテーションの評価を実施することによって成績評価を行う。 ・合計 100 点満点で 60 点以上を合格とする。			
教科書・教材	各講義の始めに講師が講義資料を配付する。			
参考図書	「プロジェクトマネジメントハンドブック」オーム社 2009.9.18 発行 「WBS/EVM による IIT プロジェクトマネジメント」 ソフトリサーチセンター2009.4.20 発行 「PMP 試験問題集」PMBOK 第五版対応 オーム社 2014.3 発行			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット 3	時間/コマ数	12/8	選択・必修	選択
開催日	2018/2/17,2/24	科目名	情報処理技術者プロジェクトマネージャ試験対策コース			教員名	酒森 潔
		(英文表記)	IPA PM Examination Preparation cause				

概要	情報システム構築におけるプロジェクト管理の進め方を、情報処理推進機構が発行している「高度情報化人材育成標準カリキュラム プロジェクトマネージャ」を基準に学習する。授業では、体系化された情報システム構築プロジェクトのカリキュラムでプロジェクト管理の知識を網羅的に整理しながら、実務事例の紹介を多く取り入れて具体的なプロジェクト計画や管理の方法を指導する。この講義部分は、産業技術大学院大学におけるプロジェクト管理特論 2 のビデオ講義の部分をまとめたものである。 さらに学んだ知識を情報処理技術者試験の午後 1 および午後 2 の試験での質問の考え方や解答の方法を指導し、試験に合格するためのポイントを指導する。			
目的・狙い	本授業は、学習者が IT 分野における実際に活用できるプロジェクト管理技術を習得し、プロジェクトマネージャ試験に合格することを目的とする。 具体的には、学習者はこの講義を通じて以下の知識や・能力を習得できる。 1. 情報システム構築プロジェクトの立上から終結までのプロジェクトマネジメント・プロセスを理解する。 2. 「情報処理技術者スキル標準」(プロジェクトマネージャ) に基づいた情報システム構築のプロジェクト管理について理解する。 3. 情報処理技術者試験における、午後 1 の記述式問題の解答の方法、午後 2 の論文の書き方について、そのノウハウを取得する。 PDU 申請のサブカテゴリー区分： 「リーダーシップ」： 2PDU 「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：8PDU 「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：2PDU			
前提知識 (履修条件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理について基本的な知識があること。			
到達目標	上位到達目標			
	(ITSS レベル 4 相当) 情報処理技術者プロジェクトマネージャ試験に合格する。			
	最低到達目標			
	(ITSS レベル 3 相当) 大規模な IT プロジェクトの PM 補佐、あるいはサブプロジェクトのリーダーができるようになる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業			
	対面授業	講義 (双方向)	◎	情報システムの構築に関する主要な PM 業務を体系的に指導する
		実習・演習 (個人)	◎	試験問題の解答方法について演習を中心に学習する
		実習・演習 (グループ)		
	サテライト開講授業			
その他				
授業外の学習	情報処理技術者試験の午後 2 の過去問題 (論文) を自宅で仕上げてくること。			
授業の内容	本講義は、情報処理推進機構 (IPA) が発行した PM カリキュラムにもとづいて作成した独自のレジュメで行う。試験対策は、全体の試験に対する考え方を解説したのち、過去問題で解答作成の訓練を行う			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	プロジェクトの立上の講義:日本における情報システム開発プロジェクトの特徴や、プロジェクトが生まれる仕組みについて解説する。	無	対面
	第 2 回	スコープ定義とスケジュール作成の講義:プロジェクトスコープの定義を行い WBS とプロジェクトスケジュールを作成するまでを解説する。	無	対面
	第 3 回	要員計画とコスト計画の講義:要員の投入計画を調整しながらスケジュールを確定しコスト計画を作成するプロセスを講義する。	無	対面
	第 4 回	論述式試験の内容と、解答のポイントを指導する。簡単な論文の書き方の演習を行う	無	対面
	第 5 回	プロジェクト計画書完成に関する講義:品質管理計画やリスク管理計画について学び、これらをプロジェクト計画の中に加味し、最終的なプロジェクト計画書としてまとめるプロセスを講義する。	無	対面
	第 6 回	プロジェクトの進捗管理の講義:プロジェクトの進捗情報を把握するための実績情報の収集方法やその分析方法について講義する。	無	対面
	第 7 回	プロジェクトの実行管理の講義:プロジェクトを予定通りに進めるための変更管理、問題管理、リスク管理などの方法について講義する。	無	対面
	第 8 回	情報処理技術者試験午後 1: 記述式試験の問題の解答方法を講義し、過去問題を使った演習を行う	無	対面
	試験	試験は無いが論文の作成を宿題とする		
成績評価	次の 2 つのポイントで評価する(合計 100 点満点) ・ 課題 第 4 回の演習後に論述式試験の解答を作成し提出する ・ テスト 第 8 回の演習で過去問を使った演習を行い、提出する			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 毎回の講義資料は LMS システムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第 5 版』 https://www.pmi-japan.org/bookstore/pm_std/pmbok5_1.php			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット3	時間/コマ数	6/4	選択・必修	選択
開催日	2018/01/27	科目名	パーソナルスキル1（コーチング&メンタリング）			教員名	濱 久人
		（英文表記）	Interpersonal Skills (Coaching & Mentoring)				

概要	本科目は、プロジェクト・マネジャーに必要なパーソナル・スキル（ファシリテーション、コーチングとメンタリング）について基本のプロセス、必要なスキルを学ぶ。パーソナルスキルは知識を理解しただけでは、なかなか実践が難しいので、講座の中でも演習やケース・スタディーを多数実施して、実践的に身につけていく。 ファシリテーションは、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、教育・学習、変革、成長などあらゆる知的創造活動を支援し、促進していく働きで、場のデザイン、対人関係、構造化、合意形成などのスキルを学ぶ。コーチング&メンタリングでは、上司やコーチ、分野の専門家が、部下や後進を導くことによる育成の方法を学ぶ。			
目的・狙い	この授業は、受講者がプロジェクトマネジメントを実践する上で必要となるパーソナルスキルの体系的知識を修得することを目的とする。具体的には、受講者は、この講義を通じて以下の知識と能力を修得できる。 1 コーチングとメンタリングの基本プロセスとスキルを理解する。 2 ファシリテーションの基本プロセスとスキルを理解する。 PDU 申請のサブカテゴリー区分 ： 「リーダーシップ」： 6 PDU 「テクニカル・プロジェクトマネジメント」： 0 PDU 「ストラテジック&ビジネスマネジメント」： 0 PDU			
前提知識 （履修条件）	出願・受講申請により受講を認められた者			
到達目標	上位到達目標			
	IT スキル標準レベル4 小規模のプロジェクト（10 人月程度）の PM を担当するためのパーソナルスキルを活用できるようになる。 大規模なプロジェクトの PM 補佐、あるいはサブプロジェクトを担当するためのパーソナルスキルを活用できるようになる。			
	最低到達目標			
	IT スキル標準レベル3 プロジェクトにおいて PM の補佐、あるいはプロジェクトのサブリーダーを担当するためのパーソナルスキルを活用できるようになる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業			
	対面授業	講義（双方向）	◎	
		実習・演習（個人）		
		実習・演習（グループ）	◎	
	サテライト開講授業			
その他				
授業外の学習	事前に提示する講義テキストを読むこと。 実際に経験されている活動の中で、部下育成やチームメンバーとのコミュニケーションで困っていることを考えてくること。			
授業の内容	本講義は、プロジェクト・マネジャーに求められるパーソナルスキルの中で、部下やメンバーの指導、支援するための重要なスキルであるコーチングとメンタリングについて、基本的なプロセスを理解し、演習を通じて実践的に理解する。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	講義概要とファシリテーションの概要 ：ファシリテーションの基本プロセスとスキル、キックオフや進捗会議などの場面におけるファシリテーションの実践など。	無	対面
	第 2 回	コーチングとメンタリングの概要 ：コーチング&メンタリングの基本プロセスとスキルとプロジェクトメンバーの動機付け。	無	対面
	第 3 回	コーチング&メンタリングとファシリテーションの実践演習 ：プロジェクト事例に基づいて、立ち上げ、計画、実行、監視コントロール、終結の各フェーズで、パーソナルスキルを活用する場面を設定し、実践演習を行う。	無	対面
	第 4 回	同上	無	対面
	試験	試験は実施せず、講義中の演習の対応で評価する。	無	対面
成績評価	次の 3 つのポイントで評価する(合計 100 点満点) ・ 受講態度 20 点 (講義の質疑への積極的な参画) ・ 演習 40 点 ・ 発表 40 点			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 毎回の講義資料は LMS システムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第 5 版』 PMI 著、『プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系』 IPA PM 育成ハンドブック (IPA の Web サイトでダウンロードできます)			

プログラム名	プロジェクトマネジメント・プロフェッショナルスクール	ユニット名	ユニット3	時間/コマ数	6/4	選択・必修	選択
開催日	2018/2/3	科目名	パーソナルスキル 2/コミュニケーション・ネゴシエーション			教員名	永谷 裕子
		(英文表記)	Interpersonal skills 2				

概要	<p>本科目は、プロジェクト・マネジャーに必要なヒューマン・スキル（○コミュニケーション、○コンフリクト・マネジメント、○リーダーシップとチームビルディング、○プレゼンテーション、○ストレスマネジメント）を演習やケース・スタディーで実践的に学んでいく。</p>		
目的・狙い	<p>この授業は、受講者がプロジェクトマネジメントを実践する上で必要となるヒューマン・スキルの体系的知識を修得することを目的とする。具体的には、受講者は、この講義を通じて以下の知識と能力を修得できる。</p> <p>1 コミュニケーションのメカニズムを理解する。</p> <p>2 コンフリクト・マネジメント：コンフリクト・マネジメントのスタイルとW I N / W I N を目指す交渉術のスキルを習得する。</p> <p>3 リーダーシップ：プロジェクトに必要なリーダーシップのあり方を理解する。</p> <p>4 チームビルディング：多様性のチームを牽引する効果的なリーダーシップ・スタイルを習得する。</p> <p>5 プレゼンテーション：プレゼンテーションの極意を習得する。</p> <p>6 ストレスマネジメント：プロジェクト・マネジャーに必要なストレスに対するコーピングを理解する</p> <p>PDU 申請のサブカテゴリー区分：</p> <p>「リーダーシップ」： 6PDU</p> <p>「テクニカル・プロジェクトマネジメント」：0PDU</p> <p>「ストラテジック&ビジネスマネジメント」：0PDU</p>		
前提知識 (履修条件)	出願・受講申請により受講を認められた者		
到達目標	上位到達目標		
	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・マネジャーに必要なヒューマン・スキルの実践力を演習により養うことができる ・ヒューマン・スキルを更に向上させるのに必要な点を自らの気づきにより明確化できる 		
	最低到達目標		
	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・マネジャーに必要なヒューマン・スキルの基本を身につける ・プロジェクト現場で実践できる様々なスタイルのヒューマン・スキルを身に着ける 		
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		
	対面授業		
	講義（双方向）	◎	
	実習・演習（個人）	◎	
	実習・演習（グループ）	◎	
	サテライト開講授業		
	その他		
授業外の学習	特に無し。		
授業の内容	<p>第1回 コミュニケーション 話し方を磨く技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・マネジャーの仕事の大部分を占める、コミュニケーション・スキルについて学ぶ。 ・効果的なコミュニケーションは何かを、ケーススタディーを用いて実践的に会得する。 ・PMBOK の知識体系である、コミュニケーション・マネジメントについて学ぶ。 ・ステークホルダー・マネジメントについて学ぶ。 <p>第2回 コンフリクト・マネジメントと交渉術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトで日常的に起こるコンフリクトへの対応方法、ネゴシエーションについて学ぶ。 ・ケーススタディーとロールプレイで、交渉術を実践的に学ぶ。 		

	<p>第3回 チーム・ビルディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なチームを引っ張っていくリーダーシップ・スタイル、チーム・ビルディングの仕組みについて学ぶ。 ・ケース・スタディーで、チーム・ビルディングの課題と対応策を考察する。 ・聴く力を身に着ける <p>第4回 プレゼンテーション・スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションとはなにか、を学ぶ。 ・実際にスピーチ行い、インタラクティブに学習する。 ・プロジェクト・マネジャー自身とメンバーのストレスにどう対処するかを体験的に学ぶ 			
授業の計画	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
	第1回	コミュニケーション・マネジメント プロジェクト・マネジャーにとって必須なスキルである、コミュニケーションの極意を体験的に学習する	無	対面
	第2回	コンフリクト・マネジメント プロジェクト・ステークホルダーとのコンフリクトの対応法を学ぶ	無	対面
	第3回	リーダーシップとチームビルディング 多様なチームを牽引するプロジェクト・リーダーの5つのリーダーシップ・スタイルを学習する	無	対面
	第4回	プレゼンテーション：ストレスマネジメント ・効果的なプレゼンテーションの要素を学習する ・プロジェクト・マネジャーが身に着けるべきストレスマネジメントを学習する	無	対面
成績評価	<p>1 毎回の講義の個人、グループ演習の成果 50%</p> <p>2 毎回の講義での振り返りレポートの提出 50%</p> <p>合計100点満点で60点以上が合格とする</p>			
教科書・教材	特になし。講義資料を配布する			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド』（PMBOK®）ガイド			